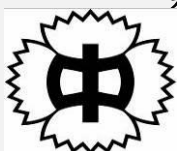


大宮小&済美小&大宮中 夢のタスキを9年間つなぎます!

東京都杉並区立大宮中学校 学校だより

令和6年6月28日 第3号(19-78)

発行責任者: 校長 関田 誠



# なでしこ

『大宮中精神: 優しさをもって、夢や目標に向かって、挑戦する若者であれ!』

## 6/10(月)朝礼校長講話

## 『人で遊ぶな、人と遊べ』の話

～ “いじる” は芸人の笑いを取る手段～

6月は東京都の『ふれあい月間』です。皆さんのまわりの人間関係を振り返る機会です。今回もいじめアンケートを実施します。今朝は友達関係について考えてみましょう。

この漢字を読める人? そうです。『いじる』ですね。私が最近よく耳にする嫌いな言葉に『人をいじる』という表現があります。『弄る』は辞書では『用事もないのにやたらに手で触ったり、なでまわしたりする』という意味です。この漢字を使った『愚弄する』とか『策を弄する』といった言葉があります。どちらも良い意味ではありません。要は自分勝手な

理屈で、相手の人格を軽視して貶める行為です。

世の中(お笑いやドッキリ、バラエティ等のTVや動画)には、『いじる(軽い) << いやがらせ << いじめ(重い)』というような図式があって、(他人をネタにしていじるくらいは、笑えてその場が和めばOK) という風潮を感じます。芸人同士が笑いを取る手段としていじりあうのを否定はしませんが、それを観た私たちが、教室や実社会で真似たらアウトです。自分としゃべり方が違う、動作や反応が違う、髪型や容姿、体型が異なる。実につまらない理由で、不愉快なあだ名で呼んだり、からかいの対象にしていじる。そこからエスカレートして、上履きや物を隠したり壊したり、画鋏を使ったり、ネットを使って悪口を言い合ったり…。怖いのは、まわりの人も(またやってるよ)と、徐々に鈍感になっていく…。こうして行きつく先のいじめは間違いなく犯罪です。

『いじる』という言葉が嫌いな理由は、『人で遊ぶ』行為だからです。生活の中で『人で遊ばれて』楽しい人はいないはず。みなさんには『人と遊んで』ほしい。一字違いが大違いです。小さなことでも『人で遊んで』反応を楽しむという心は、人として品が足りないブラックな行為だと私は思います。お互いが尊重されていて温かさのあるユーモアは、いじりとは全く違いますから大歓迎です。その違いを学んでください。ぜひ、みなさんの間では、お互いを尊重し合う本当の友達関係を築いてほしい。これは私、先生方の切なる願いです。もう一度言います。大宮中生は『人で遊ぶな、人と遊べ』、優しい人間関係を築こうということです。皆が笑顔で過ごせる大宮中をつくるのは皆さん自身です。気になることがあったら、躊躇なくアンケートに記入してください。😊



## 授業ぶらっと訪問③②

～定期考査が終わり夏休み前の授業です～

6月20日(木) 瀧本先生⑤美術 G組

瀧本先生の美術室でのG組の授業です。この時間は水墨画に取り組んでいます。前回からの第二弾ということで、本時は『金魚』を墨で描きます。筆と墨で『にじみ』の技法を活用するそうです。墨の濃淡の表現は水の量で調節するようで、瀧本先生の説明では『濃墨』『中墨』『淡墨』の三種類をパレットに準備します。まずは各自で筆二本とパレット、バケツを準備して、瀧本先生のまわりに集まります。



瀧本先生が金魚の描き方を説明しながら模範に描いてみせます。まわりに集まった生徒は、集中して食い入るように先生の手元を見て「これ金魚?」「亀じゃない?」などと言っています。しっぽのコツとして、筆の使い方は立てないで寝かせ気味にするように説明していました。いよいよ実際に生徒が描きます。それぞれ5枚ずつ半紙が配られて自分で描き始めます。生徒が準備でパレットに墨を出して、それに水を加えて調合を始めます。教室の中に墨の香りがぷーんと漂ってきます。描き始めました。結構大胆に描いている生徒が多い様子です。個性的な金魚の姿が表現されていきます。薄めの墨で描くのがポイントのようです。この時間は楽しそうに描いている姿が印象的でした。二時間続きで六時間目に続くところで、私は美術室を離れました。

6月20日(木) 岸谷先生⑥保体 2B

今年最初の水泳の授業です。雲が多い午後で、程よい強さの日差しで、屋上のプールはよく風が通って気持ち良いです。水泳の事故予防のために、補助監視員が三名付いてるので安心です。最初に水泳の授業のルールを岸谷先生が説明します。その後体育係の号令で、準備体操を入念にやりました。「うわ～

冷たい!」という声とともにシャワーを浴びた後、自分のパディを決めながら待っています。泳ぐ前に相棒を決めるのがルールです。号令をかけてパディ確認の儀式(二人で手をつないで、二列に並んで、一、二、三…と声をかけて、お互いの手を高く掲げていました)をやった後、プールサイドに座って、水を自分の身体にかけます。岸谷先生が「去年の授業を思い出して～」と言いながらポイントを説明して、ポビング、ふし浮き、五回戦(ジャンケンを水中で行う)と、よどみなく進みます。水に慣れた所で、プールを横に使って、男女で向き合って一往復×三本クロールで泳ぎます。ビート板を使う生徒もいますが、多くの生徒は何とか壁まで足をつかずに泳ぎます。水泳は得意な生徒、不得意な生徒の差ははっきり分かりますが、各自のペースでベストを尽くそうとしていて良い雰囲気です。段々強度が上がっていきます。今度は生徒が移動して縦に泳ぎます。頭の前にビート板を置いて腕を伸ばして持って、もう一方の手で水を掻きます。腕を頭の上に伸ばすことがポイントで「焼き鳥」と称していました。それを左右の手を変えながらバタ足をしながら何本か泳ぎます。岸谷先生の説明を受けながら、きれいな腕の動きとローリングをしながら息継ぎをすることを練習していました。

岸谷先生は、時折、「去年より上手くなったね」等と声をかけていました。次にビート板を使わなくてもできる生徒は、自力で泳ぎます。何本も泳いでいる間に、あっという間に時間となり、最後に再びパディの確認を



してから、授業は終了となりました。水泳の授業が始まると、いよいよ夏の到来です。授業は水の事故や怪我がないように進めてまいります。

## 6月24日(月)②国語尾形先生 1A

今年度のニューフェイス、新採の尾形先生です。本時の授業は「漢字テストをやります」から始まりました。その声に、生徒は「聞いてません(生徒)」「伝えています(尾形先生)」と、とにかく賑やか。尾形先生「いえいえ、ちゃんと聞いている人がいますから」という言葉。更に「3分間あげますからテストの準備をしてください」に「先生、優しい」といった生徒とのやりとりがあります。テストが始まると生徒は集中してペンを動かし始めます。10問テストです。【書き】童謡、陶芸、一括、暖かい、提案、【読み】打撲、維持する、捻出、挫折、包括、でした。終了後に間違えた漢字を二回練習するように指示しています。その後漢字小テストを回収します。テストの結果を見回すと、小テストの準備を家庭でやってきた生徒はしっかり出来ており、忘れていた生徒は苦しい状況でした(14分経過)。



今日は教科書の68ページ詩の授業です。尾形先生が本題に入ろうとしますが、中々全体が静かになりません。生徒の中から「落ち着きがないよ!」という言葉が出て、全体がようやく静かになりました。時間がかかります。教室が落ち着いたところで、尾形先生は『詩の鑑賞のポイント』を電子黒板に表示して説明します。「①は詩では表記の工夫として、敢えてひらがなを使う場合があります。漢字を知らないわけではなくて、作者はどんな字を使うかで印象を操作することを狙っています」と話します。教室全体にスイッチが入って集中が高まってきます。A組の生徒は国語の授業は好きな様子です。授業の冒頭から落ち着いて授業に入ると、更に成長できるなと感じました。

授業は進みます。「次は②の音読です。詩は声に出して読むことを前提に書かれています。リズムや韻を踏んだり(押韻)、あえてリズムを崩す(破調)、

例えば5・7・5の調子を敢えて5・10・5にすることで、音読した時の効果を狙います」生徒はなるほどという雰囲気、色々つばやきながらノートに写しています。「次は③の使われている言葉です。詩の短い言葉に様々な意味を込められています。るるる…という詩で、おなじ文字を何度も使うことで不思議な効果を出しましたね」(ここまで30分経過)。

「次が④の詩の映像化、イメージ化のポイントです。5W1Hを考えます。そして絵を描くように具体的に映像を思い浮かべるということも必要です」「最後が⑤の表現技法です。倒置法、比喩、体言止めなど、そこを目立たせたい、作者が注目してほしい場所であって、主題との関りが深い箇所になりますね」といった、詩の理解に必要な知識を、生徒とやりとりしながら要領よく確認していきます。(40分経過)。

ここでプリントを配りながら、「ちょっと時間が足りなさそう」と尾形先生がつばやきます。『一枚の絵』という木坂涼の詩です。ロイロノートを使って、前時の生徒の詩を読んだ感想を大きく写して共有を始めます。「朝の湖の雰囲気」「よくわかりません」という正直(?)な感想もあります。尾形先生の「この詩で、①の表記の工夫がなされているところを探して印をつけてみましょう。各自で取り組んでください」という発問に調べ始めます。生徒が最高に集中して頭が回転してきたところでチャイムが鳴りました。ここで終わるのは惜しい!漢字小テストをサッと済ませて、後半に必要な時間が確保するなどして、あと5分間時間を作りたい…。四月から授業に臨んでいる尾形先生は、ディベートの授業等にも意欲的に取り組んでいます。次の機会が楽しみです。

### ヤゴ救出大作戦

6月4日に本校体育館屋上プールで、ボランティアサークル『なでたろう』に応募してくれた生徒たちと、ヤゴ採集を楽しみました。捕獲したたくさんさんのヤゴは、済美小のご厚意で済美小の緑に囲まれたビオトープに放すことができました。



## 第76回運動会

この時期の不安定な天候で準備も順調とはいきま  
せんでしたが、予行で進行や競技の課題を洗い出し  
て、当日本番を迎えました。朝から曇り空で 22℃  
の絶好のコンディションでした。開会式から生徒は  
キビキビした動きで、やる気が伝わってきます。私  
は「今年も言います。達成感なく感動の残らない学  
校行事なんか、やるだけ無駄です。ぜひ、学級・学  
年・学校全体で、笑って、泣いて、大声を振り絞っ  
て応援して、絆を深め、心と体が震える一日にしま  
しょう」と挨拶しました。



本校の運動会は朝 8:30~12:00 までの半日開催  
で、『スマート運動会』と銘打って実施しています。  
50、100M走から始まり力が入った長距離走と続  
きます。その後は、全員リレーと学年種目、一年生  
は『いかだ流し』二年生は『ローハイド』が交互に  
続きます。半日で行うための工夫として、準備体操、  
整理体操の簡素化、選手の入退場を同時に行うこと、  
競技する選手が自分たちで道具を運ぶといった工夫  
をしています。こうした効果で時間を生み出して、  
今年度から表現種目として全校ソーラン節も復活さ  
せました。運動会のクライマックスは、三年生の『大  
ムカデ』と全学年選抜リレーです。大ムカデは、女  
子チーム⇒男子チームとつないだ後、男女が連結し  
てトラックを計3周走りきりました。

今回も印象に残ったのは、生徒が自分の学級の生  
徒、学年を超えた温かい応援や声援が、競技開始か  
ら終了まで切れ目なく続いたことです。お互いに応  
援し合って、楽しい雰囲気を作って盛り上がるすべ  
を知っていました。また、全体を通して三年生が迫  
力ある競技、演技で、  
下級生へのリーダー  
シップが際立った一  
日となりました。今  
回は保護者、地域の  
方々の参観が 474 名  
でした。ありがとうございました。また、  
寄せられた感想アン  
ケートを参考にしな  
がら、音響施設等の  
改善を図ってまいり  
ます。



## 連合移動教室 (G組)



杉並区内6校の特別支援学級で、野辺山にある  
『帝産ロッジ』で、二泊三日の宿泊行事をおこな  
いました。G組は15名の生徒が参加しました。

一日目は朝から雨模様の中バスで出発し、昼食  
はクラインガルテンでほうとう作り体験をして、  
大変美味しいほうとうを食べました。午後はオオ  
ムラサキセンターで昆虫の生態について学習し  
ました。オオムラサキを飼育している環境の、大  
きなドーム状の金網施設内で、葉を食べる大きな  
幼虫も観察できました。その後パノラマの湯で温  
泉につかり親睦を深めました。宿に着いてから、  
部屋でカードゲームをして交流を深めました。夜  
は宿舎でバイキングディナーでした。生徒がもり  
もり食べている姿にうれしくなりました。

二日目は、快晴の下で体育館でのポッチャ交流  
大会を行いました。他校の生徒と自己紹介をし合  
って、互いの良いプレーを称え合いながら温かい  
交流ができました。宿舎に戻ってランチの牛丼を  
食べてから、バスで移動して清里でネイチャー体  
験をしました。森を散策しながら、様々な草や樹  
木について学習しました。ヤマネヤリスの生態に  
ついて、はく製を触ったりしながら学習しまし  
た。宿に戻る途中、お土産屋さんで買い物学習を  
して、お約束のソフトクリームタイムとなりました。  
ブランコに乗りながら笑顔で食べていまし  
た。宿舎での朝晩の食事は、バイキングスタイル  
でのおいしい食事に、生徒も大満足でした。



最終日は、まきば牧場、オルゴール館を見学し  
て、ROCK で有名なビーフカレーを頂きました。  
そこからバスで移動して桔梗信玄餅工場体験、  
見学をしました。清里を離れて東京に近づくと  
段々暑くなってきて、三日間の涼しい高原から現  
実に引き戻されました。たくさんの自然の中で、  
事故やトラブルなく、生徒と教職員の交流がで  
きた素晴らしい二泊三日でした。

